



会報



THE ROTARY CLUB 鶴岡ロータリークラブ
OF TSURUOKA

斎藤得四郎氏 絵

第672回例会 1972.9.26 (火) 曇 No.13

例会日 火曜日 12時30分

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひ さ ご や

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内

会長 阿部 囊 幹事 市川輝雄

Let's Take A New Look!

「もう一度 見直そう」

出席報告

本日の出席

会 員	数	63名
出 席	数	45名
出 席	率	71.43%

前回の出席

前 回	出 席	率	80.95%
修 正	出 席	数	53名
確 定	出 席	率	84.13%

欠 席 者

阿宗君、阿部(公)君、安藤君、早坂(徳)君
橋浦、平田君、青山君、五十嵐(伊)君、

五十嵐(一)君、今野君、海東君、上林君
黒谷君、中野君、三浦君、岩網君、齋藤
(信)君、藪田君

メークアップ

海東君—東京RC
新徳君—酒田RC

ピジター

永井一夫君—札幌RC
西村石蔵君、岡部欣司君—酒田RC
原田行雄君、半田茂弥、菅原松雄君
—鶴岡西RC

会報はご家族みんなで読みましょう

■司 会 阿 部 会 長

■ロータリーソング 「手に手つないで」

■会長報告

○国際ロータリーニュースより

(1) 青年の立派な功績を刺戟する最善の方法の一つとして、それを表彰する方法がある。このため青年功績賞を文庫東京事務所で整えてある。各クラブとも、若者のやり遂げた業績を認め称賛に価する青年の表彰のために使用して欲しいとのこと。この賞状は紺色と金色、縦8インチに横10インチの大きさで1枚155円である。

(2) 職業奉仕でわれわれは何が出来るか

職業奉仕のほんとうの意味を明らかにするのに役立つクラブ計画で、考えられるものの中には次のようなものがある。

(イ) 日常の仕事を通じて奉仕の理想を実行した市民を表彰して与える賞

(ロ) 販売員の間及び一般公衆に接する他の人々の親切競争

(ハ) 地域社会ぐるみでの四つのテストの推進

(ニ) 青少年のための職業情報

(ホ) ロータリーの現状

1972年8月1日現在、149ヶ国に15,388のロータリークラブがあり推定723,000名のロータリアンがいる。

○本日ビジターである永井一夫君が札幌RCのバーナーをご持参下さいました。当クラブのバーナーと交換いたします。ありがとうございました。

■幹事報告

○会報到着

石巻・寒河江・天童・村上・石巻東各RC

○例会変更

温海RC 9月25日 PM5.00 鼠ヶ関ピーチセンター

寒河江RC 9月28日 PM5.20 伊勢屋旅館

○秋田ロータリークラブ設立20周年記念式典
10月25日 秋田ニューグランドホテル

当日鶴岡クラブのガバナー公式訪問日に当たっているため祝電を送っておきます。

○ローターアクト設立を11月中に行いたいと思います。設立準備委員の方々再度発表いたします。

委員長 阿部 襄君
委員 三井 徹君 安藤 定助君
石黒慶之助君 中山 一三君
齋藤 信義君

■ニコニコ ボックス

小野寺清君 荘内日報社創立25周年記念おめでとう。

阿部 襄君 荘内日報社創立25周年記念式典で荘日文化賞を受賞された。おめでとう。

▷ごあいさつ 永井一夫教授

「鶴岡と私」

永井一夫先生は徳島の出身で六高・東大を経て北大医学部小児科の初代教授

現在 年令 85才6ヶ月

ロータリー歴 29年3ヶ月 100%皆出席

札幌RC 職業分類「女子教育」

北大医学部 名誉教授

天使女子短期大学教授

先生は北大医学部を停年でやめられると同時に一切の臨床を排除され、乳児の健康相談指導並びに女子の教育——一般教養の向上の分野に尽力されている。

趣味はドイツ語を良く理解される所からドイツ文学にご造詣が深い。加えて日本文学特に漢詩を良くされる。

先生と鶴岡を結びつけた直接の動機は

先生は鶴岡の生んだ文学者高山樗牛の文学に若くから深く傾倒されており、それが生家を尋ねられるためと、三井光弥先生（三井徹会員のご尊父）がドイツ文学を良く研究されていた所から先生と会われる目的で鶴岡を訪問された。

しかし三井光弥先生は丁度その前年になくなられていたので霊前にご焼香をあげることになられたが三井家とはそれが因縁で爾来親子の仲よりも深いおつき合いとなっている。

先生は東北に学会があるたびに鶴岡の三井家におたちよりになられている。

先生のご人格、ご教養に接すればする程啓発され指導されておる次第です。

先生は鶴岡のたたずまいをこよなく愛され鶴岡においてになると心のやすまる思いがすると常々云われている。

——等と、三井徹会員より永井一夫先生の紹介がなされた。

ついで先生より「ロータリーは出席することに意義があること、そして中毒になれば万全であること」「鶴岡は今なお城下町としてのたたずまいを残す美しい静かな街でこよなくこの町を愛されていること」等先生の人生所感をとりまぜて、ごあいさつがなされた。